

かわべ

議会だより



みんな仲よく、元気いっぱい

(4月11日 川辺第一保育園にて)

平成17年5月19日



第103号

◆ 総額 76億3,816万円 (17年度予算の内訳) 2 ~ 3

◆ 人権擁護委員の推薦・教育委員の同意について 4

◆ 一般質問 6人の議員が登壇 5 ~ 12

◆ 編集後記 12

17年第1回定例会

3月定例会 (3月7日~18日まで)

平成17年度予算総額

76億3,816万円を議決

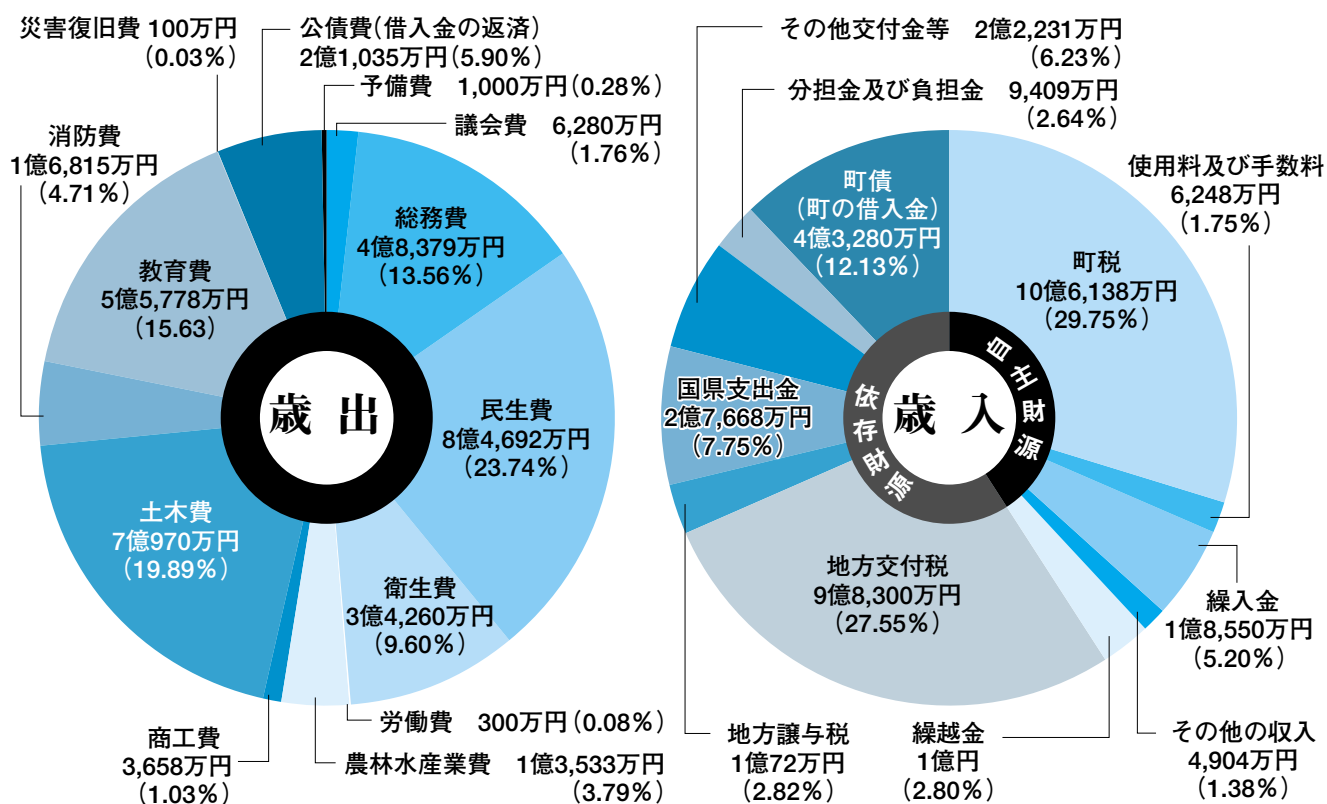
一般会計35億6,800万円 (前年度に対して18.4%の減)

特別会計総額40億7,016万円 (" 2.0%の増)

本定例会では、人事案件2件、条例案件6件、予算案件15件、認定案件1件、その他の案件5件など29議案を審議し、いずれも原案のとおり可決、同意しました。

◆ 一般会計 ◆

町政を取り巻く財政環境は極めて厳しく、景気の低迷が続く、町税等の自主財源は減額を余儀なくされる中、行政サービスの水準を堅持することを基本に、最小の経費で最大の効果を挙げるべく、徹底した経費の抑制を図っています。



◆ 歳 出 ◆

主 な 事 業		対前年度比
議 会 費	議会運営経費 4,599万円	0.4%増
総 務 費	町長選挙費 709万円、農業委員会委員選挙費 247万円 花の都かわべづくり事業 202万円、国勢調査事業費 435万円 固定資産税客体把握事業 1,094万円、総合行政ネットワーク管理 561万円	3.0%減
民 生 費	障害者福祉対策 8,936万円、老人福祉対策 1億3,191万円 児童福祉対策 2億9,354万円、福祉医療助成 7,345万円	5.1%増
衛 生 費	健診等老人保健対策 2,693万円、予防接種事業 1,265万円 母子保健対策 329万円、ごみ処理対策 1億1,292万円 合併浄化槽設置補助 723万円	6.9%減
労 働 費	労働者生活資金融資事業 300万円	±0
農林水産業費	水田農業構造改革（米の生産調整）323万円、農道整備事業 617万円 土地改良施設維持管理適正化事業 518万円、有害鳥獣捕獲事業 108万円	4.9%減
商 工 費	町小口融資事業 2,003万円、川辺おどり協賛補助事業 400万円 ふれ愛まつり補助事業 300万円、商工会補助事業 630万円 商品券発行補助 180万円	16.5%減
土 木 費	川辺ダム湖周辺整備事業 7,501万円、山川橋整備基金積立金 1,000万円 山楠公園再整備事業 600万円、東海環状自動車道高架下多目的広場整備 838万円 木造住宅耐震補強工事費補助 120万円、交通安全施設整備工事 423万円 道路新設改良事業 1億5,375万円、町道維持修繕費 9,267万円	22.3%減
消 防 費	耐震性防火水槽設置工事700万円 総合防災情報システム端末整備113万円	6.2%減
教 育 費	中央公民館図書室増床事業 2億300万円、中央公民館図書室運営事業 760万円 児童生徒支援事業 476万円、文化講演会・芸術劇場開催事業 300万円 学校施設設備整備改修事業 471万円、漕艇センターエアコン取付費 143万円	43.3%減

※ 教育費の大きな減は、16年度で川辺中学校屋内運動場建設事業 6億546万円が終了したこと、また土木費の減は、川辺ダム湖周辺整備事業が9,780万円減額となったことなどによるものです。

◆ 特 別 会 計 ◆

	予 算 額		予 算 額
国民健康保険事業特別会計	8億2,300万円	農業集落排水事業特別会計	3,640万円
老人保健特別会計	10億4,700万円	介護保険特別会計	5億8,800万円
学校給食共同調理場特別会計	5,157万円	水道事業会計	4億5,519万円
下水道事業特別会計	10億6,900万円	特別会計合計	40億7,016万円

人事案件

▲人権擁護委員の推薦

渡辺敏彦氏は、適任であると答申しました。
昭和19年7月1日生
下麻生98番地4



▲教育委員会委員の任命

栗山 罔彦氏を、任命することに同意しました。
昭和9年11月9日生
中川辺91番地



条例案件

▲人事行政の運営等の状況の公表に関する条例の制定

地方公務員法の改正により、人事行政の運営等の状況全般について、公正性・透明性の確保が義務づけられ、制定するものです。

▲税条例の一部改正

不動産登記法の改正により、条例中の用語の一部を改正するものです。

▲職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部改正

育児又は介護を行う職員に、早出・遅出出勤の適用を規定するものです。

▲学校施設の社会教育等使用に関する条例の一部改正

中学校屋内運動場の完成に伴い、会議室及び柔

剣道場の使用料を追加するものです。

▲福祉医療費助成に関する条例の一部改正

69歳老人に達する者に対する助成について、県の制度の廃止に伴い、本年4月より廃止するものです。

▲小口融資条例の一部改正

町からの資金措置の方法を変更するものです。

予算案件

▲16年度一般会計補正予算(第5号)

6417万6千円を減額し、総額が43億7393万1千円となりました。

主な内容は

川辺中学校屋内運動場建設事業などの入札結果等による減額のほか、決

算見込みにより所要額の調整をしました。

▲16年度国民健康保険事業特別会計補正予算(第3号)

3173万2千円を増額し、総額が8億2377万6千円となりました。

主な内容は

医療費の決算見込みにおいて不足が見込まれるため増額をしました。

▲16年度老人保健特別会計補正予算(第2号)

6084万3千円を増額し、総額が11億4176万2千円となりました。

主な内容は

医療費の決算見込みにおいて不足が見込まれるため増額をしました。

▲16年度水道事業会計補正予算(第3号)

決算見込みにより、一般会計からの補助金849万5千円を減額しました。

▲16年度一般会計補正予算(第6号)

川辺中学校屋内運動場建設事業費のうち1240万円について、財源内訳の変更(起債へ)を行いました。

美濃加茂市・加茂郡町村合併の案件

▲16年度美濃加茂市・加茂郡町村合併協議会会計歳入歳出決算の認定

16年12月31日をもって廃止となった協議会の決算について、認定しました。

歳入・歳出とも、総額は、2340万2156円です。

その他の案件

左記に掲げる案件は、いずれも市町村合併により、その構成市町村及び組合員数の変更が必要となったことなどの理由により、所要の改正を行いました。

▲岐阜県市町村会館組合を組織する市町村数の増減について

▲岐阜県市町村職員退職手当組合格約の一部改正

▲可茂広域事務組合格約の一部改正

▲中濃地域農業共済事務組合格約の一部改正

▲岐阜県市町村会館組合規約の一部改正

一 般 質 問

そこが聞きたい! 知りたい!

定例会の3月17日、6名の議員が質問に立ち、町政をただしました。
質問と答弁の内容は次のとおりです。



安田昌次 議員

工場跡地取得の再検討を

【安田議員】 B & G 海洋センターおよび、ダム湖周辺整備事業による遊歩道に隣接する比久見地内の工場跡地を、土地開発公社による用地先行取得と年賦返済という手法を取れば、年間経費を圧迫することなく取得できると思うがどうか。
財政厳しい折り、また将来の事も考え箱ものは造らず、とりあえず多目的グラウンドとして、四

季折々を通して楽しむことが出来るスポーツの場、憩いの場、一時避難所として有効活用してはどうか。

今は、行政体制の整備が最重要

【佐藤町長】

土地開発公社による用地取得も、諸条件が整い、事業計画が確立された状況においては、決して不可能ではありませんが、現段階においては、取得する手法の問題ではなく、その土地を「夢ふくらむ町づくり」にとつてどう生かすことが望ましいか、町が生かすとしたら、もし民間の方が取得されたらどうなるのか、行財政運営への効果・影響はなど、よく検討すべ

きと考えています。

民間企業の所有される財産であり、町の意思によって自由にできるものではないかもしれませんが、財政状況も引き続き厳しい状況にあり、今は、まず地方分権を担う行政体制を整備することが最重要と考えています。

安全・安心 パトロール隊の設置を

【安田議員】

青色回転灯を装備し



青色回転灯車によるパトロール (大垣市にて)

た自動車による自主防犯パトロールを実施している市では、歴然としてその防犯効果が上がっているとのことです。実施するには、町の強力な指導がなければ前に進めません。

青色回転灯車によるパトロールの実施が、厳しいということであれば、さしあたり、特に子供達の安全・安心を守ることが最優先にした町内のパトロール隊(ボランティア巡視活動)を発足させることはできないか。

生活安全協議会で指針を示す

【古川経営管理課長】

町内では、16年中に刑法犯罪が郡内1位の177件、火災が20件(内、不審火が14件)発生しています。

3月24日に立ち上げる生活安全協議会にて、町内での犯罪にいかに対処していくか、その指針を示し、町民のための町民による安心・安全な町づくりを進めます。
地域防犯活動への働きかけと支援を行い、その一環として青色回転灯の装着等に関する助言、指導を行っていきます。

「自分たちの町は自分たちで守る」という地域ぐるみの防犯体制が確立すれば、犯罪抑止に繋がると考えるが、どうか。

一 般 質 問

子供たちの学力低下は起きているのか

【安田議員】

川辺町の子供たちの学力はどの程度なのか、確かな学力を身につけているのか。また「総合的な学習の時間」は先生の技量が問われますが、どのような指導を行っているのか明らかになってほしい。授業時間を削減したままでいいのか、土曜日や夏休みなどの休日の活用方法をどのように考えているのか問う。

「確かな学力」と「生きる力の育成」の充実に努力を

【加藤教育長】

民間学力検査の結果では、学年によって差がありますが、学校合計での総合学力は、全国平均を上回っています。本年1月中旬に行われた岐阜県学習状況調査の正答率の

概況は、県の正答率に比べ平均で3・4ポイントほど下まわり、今回下まわった問題については対策を検討する必要があると見ます。

教育委員会では、「あらたまプラン」を策定し、学校教育と家庭教育と地域教育それぞれの目標を設定し、連携を強め児童・生徒の育成に努力しています。また学校教育では、「方針と重点」を示し、基礎・基本の定着と心の教育を推進し「生きる力」を育てることを重点に掲げ、指導の充実を図っています。総合的な学習については、指導内容の精選や効果的な指導方法の研究を行いながら進めています。

学校5日制実施により、各小学校を会場に月2回の土曜教室と、夏休みには児童向き公民館講座を開設しています。学校への指導と支援とおして、「確かな学力」と「生きる力の育成」の充実に努力をします。



佐伯陽子 議員

子育て勉強会に祖父母の参加を

【佐伯議員】

何かと不安の中で孫の世話をする祖父母のため、子育て中の親を対象にした勉強会に祖父母の参加を認めてはどうか。

現在実施している事業へ参加を

【佐伯教育課長】

子育てについては、保健、福祉、教育の分野でそれぞれ事業を行っており、高齢者学級や婦人学級の講座の中に、希望により子育てのメニューを加えることも考えられます。公民館・保育所・各小中学校で開催している家庭教育学級など、講座

や学級は参加者の制限は無く、大いに利用して若い父親、母親と共に子育てについて勉強されることは意義あることと思います。

山川橋を一方通行に

【佐伯議員】

山川橋を自転車通学の中学生や歩行者が安心して通れるよう、一般車を中川辺から福島方面への一方通行に規制し、分離帯により自転車歩行者専用道路を設けてはどうか。

非常に難しい

【古川経営管理課長】

山川橋は建設から67年を経過し、橋そのものが構造物の設置に耐えられず、また道路構造令から現在の幅員では分離帯の設置は困難です。一方通行規制は、最終的に県公安委員会決定するものですが、山川橋は、地元住民の生活道路に止まらず他町村、広域的な役割から利用も多く、規制は大変大きな影響があり、非常に難しいものと考えられています。



山川橋

一 般 質 問



櫻井常雄 議員

郡内町村に対し 郡内合併の明確な 意思表示を

【櫻井議員】

昨年12月定例会で町長は、「あらゆる選択肢を否定せず慎重に検討する。」と答弁され、以後、町内ではさまざまな意見が出ています。合併は避けて通れないことは、誰もが一致した認識です。2月には、「加茂郡町村合併等研究会」が発足、3月には、川辺町青年部が中心になり、加茂郡内各種団体に呼びかけまちづくり懇談会を開催しました。川辺町は加茂郡の中心です。

こうした現状から川辺町は、率先して郡内合併に向け、郡内へ働きかけるべきです。町長は、

次期町長選出馬の意向を表明されているので、郡内各町村に対し、川辺町としての明確な意思を表明すべきと考えるが、どうか。

あらゆる選択肢を 否定せず 検討を進める

【佐藤町長】

可及的速やかに、かつ慎重にあらゆる選択肢を否定せず、検討を進めたいというのが基本的態度です。まちづくり懇談会に出席し、「青年の叫びを聞いてもらいたい」という趣旨とその情熱には、感動しました。

合併の機運が高まっている今を逃せば、合併協議そのものが自然消滅してしまう虞があり、いかなる枠組みであれ、ここ2年以内に合併を成就させたい。その意味で、加茂郡7町村という枠組みも重要な選択肢のひとつであり、加茂郡町村合併

等研究会の場で、さらなる研究、検討を進めます。

町長職務について の感想を

【櫻井議員】

4年間を振り返り率直な感想と、再出馬にあたり抱負、信念を問う。

新たな目標に 向かい、全力を 傾注する

【佐藤町長】

「夢ふくらむ元気な川辺町」をテーマに各種政策・施策の推進に渾身の力を振り絞り、全力で駆け抜けてきました。常に温かい励ましと日々叱咤激励をいただき、心からお礼申し上げます。今後は、細心の注意を払って市町村合併に取り組みつつ、自らの信ずるところに従い、皆様の意見を頂戴しながら、新たな目標に向かって最大最高の努

力をし、全力を傾注することを誓います。

耐震性防火水槽整備 計画はあるのか

【櫻井議員】

東海・東南海地震対策の一環として耐震性防火水槽の整備は必要だと考えますが、予算化は、設置計画に基づいたものかどうか。

施設整備整備計画 により設置する

【古川経営管理課長】

15年度に、町防災計画にのっとり、17～32年度までの施設整備整備計画を策定しました。

本計画に位置づけられている耐震性防火水槽の設置事業では、17～21年度の5年間で、水利の不足する地域（上水道ポンプアップ地域）で地元において用地が確保されているか、町有地のある地区から設置します。



耐震性防火水槽(町外にて)

一 般 質 問



桜井真茂 議員

17年度の予算その他 について町長の姿勢 を問う

(この質問は、1問1答方式で行われました。)

【桜井議員】

東海環状自動車道が供用開始となり、アクセス道路である41号美濃加茂バイパスの早期完成が望まれています。

その用地買収において、境界(市町村境)が未だはつきりせず問題となつています。境界を知る人ぞ今は少なく、過去に立会がありましたか確定していません。測量面積と公簿面積との照らし合わせが和解への道と考えるが、どうか。

次に、過去にも何人



少年サッカークラブ練習風景 (4月16日)

かの議員から「中学校にサッカー部を新設」の質問がありました。現在に至っても実施されていません。

サッカー人気は衰えることを知らず、川辺町の少年サッカークラブは先ごろの大会で優秀な成績を収め、子供達は大喜びでした。そのような中、中学校に進学すると、やむを得ず他の部活に入らなければなりません。それは余りにも残酷で子供達のスポーツを選択する自由を奪うものではないでしょうか。指導する先生の数が足りないという答弁もありましたが、サッカー部を作ることが今一番大切なことと考えるが、どうか。

次に、加茂郡7ヶ町村による合併等研究会が発足しましたが、うち2

町は「加茂郡とは合併をしないが研究には参加する。」というように聞いています。今後、研究会の話が煮詰まってくれば、飛び地の2町が抜ける可能性が大で、5ヶ町村の合併となります。比久見地内の工場跡地に新庁舎を設けるとい話も出ています。私は3人の議員で、1月22日に町民あてに新聞折り込みを入れました。内容は、「合併の破たんは、山間部を含む7ヶ町村の合併に美濃加茂市民がノーという結論を下した。」と書かせていただきました。ここに至って7ヶ町村あるいは5ヶ町村の合併など川辺町民のためにも考えない方が良くないと思います。先の美濃加茂市の二の舞です。合併が破たんする前に、市と個別で意見交換をしたり、合併破たん後に市と個別で接触したことがありますか。水面下で美濃加茂市と接触することも町長として必要かと考えるが、どうか。

【佐藤町長】

昨年12月の定例議会最終日の懇親会場において、町長は某課長に対して、暴力を振るわれた。部下に対し暴力を振るうということが断じて許すことができません。三役の減給処分が議会で決定された後の出来事でもあり、本当に町民に詫げる気持ちがあるのか疑うところであり、考えを聞きたい。

第1点目、当地域は行政境ですが、互いに隣接

一 般 質 問

する土地は民有地であり、地権者同士がお互いの理解の中で決定することが、境界確定には必要と認識しています。3月1日に関係者の立会が行われ出席いただいた方との立会の結果によりある程度測量は可能とも聞き、今後国土交通省と町が協力して用地交渉にあたりますが、良い方向へ進む事を期待しています。今回の測量結果が少なくとも土地境界問題の参考資料になればと考えています。

第2点目、学校の部活動については、学校経営の中で学校の実態を十分検討して決定するのが筋です。現時点では、新設を前提として前向きに検討する時期にきているのではないかと理解しています。中学校の生徒の数、場所の問題、他の部活の問題等解決しなければならぬ難題も多々あると思います。生徒・父兄の希望を真摯に聞いた上で、中学校経営の一環と

して部活としてあるべき姿となるよう教育委員会からも指導されるよう申し入れをします。

第3点目、合併は避けて通ることができない喫緊の最重要課題であるということ、そして可及的速やかにかつ慎重にあらゆる選択肢を否定せず、検討を進めたいというのが私の基本的態度です。

交渉ごとには潮時、タイムリングが非常に重要であり、現在、美濃加茂市議会の中においても合併問題について、けんけん諍々の論争が行われており、さらに美濃加茂14団体から、再度1市7ヶ町村の合併協議会をという請願ができています。したがって、川辺町単独で美濃加茂市に編入されるというのも選択肢としては考えられますが、今現在、私はその考えにくみするものではないと思います。

第4点目、図書館もしくは図書室の整備は長年の課題であり、第3次総合計画の施策の中に、図

書室機能の充実推進を掲げています。

16年度1月末に実施施設計を完了し、第4回定例会において「川辺町中央公民館図書室増床事業の17年度実施に関する決議」が賛成多数で可決され、さらに教育委員長からは、生涯学習を推進するためにも17年度中に完成するよう申出書が提出されています。現在の財

政環境下でさまざまな課題事業を抱えている中、図書室の充実、住民サービスの高さも優先度が高いと判断し予算化しました。財政状況厳しい中での決断であり、すべてを備えた大きな図書館と比べれば完全とはいえませんが、完成した暁には住民の皆さんのご意見とご協力を得ながら、住民にとって便利な図書室



手狭な図書室

として、また多くのボランティアの皆さんからお力をお借りしながら運営を図っていきます。完成後の運営管理については、必要最小限の費用でいかにより成果を得るか、いろいろ検討していきます。

第5点目、職員の看過すべからざる行為に対しては勇気を振り絞り、可能な限りの大声で、全身全霊で職員を叱り指導したことがあります。私の暴言として伝わったとすれば、まったく心外であり、悲しく虚しいことです。懇親会当日、某課長が酩酊し、「町長はなんで俺ばかりを叱るのか」と怒鳴りました。2年前大喝にまで至ったことはすべて忘却し、私に對する恨みだけが残ったよう、思わず理性を失い手を挙げてしまいました。2日後、課長宅を訪問し手を挙げたことの謝罪をしましたが、いかなる理由があろうと手を挙げたことは事実であり、

一 般 質 問

ここに謹んでお詫び申し上げます。

【桜井議員】

市民の境界とはいえ41号バイパスに関わることであり、予算補正をしてでも測量していただきたい。

合併の件ですが、町長に外部から「加茂郡の合併を是非とも頼む」という、圧力的な言葉があったかどうか。

【佐藤町長】

私としては、圧力とか、あるいは強い要請とか受けたという認識は持っていません。

【桜井議員】

決して圧力に下ることなく、川辺町民のためを考え、生活圏は美濃加茂市にあるのですから、美濃加茂市との合併を是非とも推進していただきたい。



牧田富朗 議員

国体ボート会場の誘致を

【牧田議員】

平成24年開催予定の岐阜国体まであと7年、県ではすでに会場の選定など開催準備が進められています。

「ボート王国かわべ」「先の高校総体ボート大会を立派に運営し大成功を納めた川辺町」としてぜひ誘致し、まちづくりの活性化の為に起爆剤にされたい。誘致する場合の課題は、

- ・ 市町村合併と川辺町の課題は、
- ・ 財政上の問題
- ・ 棧橋の増設
- ・ 配艇と中学グラウンド
- ・ 宿泊所
- ・ 駐車場の確保

- ・ 中学校の授業日と大会開催
- ・ スタッフ
- ・ 艇庫の改修

などがありますが、町民の協力、支援と行政側のやる気で克服できる事項でありぜひ誘致を願うかどうか。

かなりのハードルを越えないと実現困難

【佐藤町長】

16年3月に国体開催の意向が調査され、ボート種目について開催したい旨の回答をしました。その後のヒヤリングや視察において、コースなどについてはまったく問題がなかったが、一貫して問題となったのは配艇場と駐車場の件でした。中学校グラウンドでは、約250艇を必要とする大会の配艇場とその付属施設などの設置が困難という結論となり、また9月中旬から10月中旬にかけて



岐阜県川辺漕艇場

の開催となり、中学校の授業に多大な影響があることについて懸念を示しています。

ボート王国を標榜する川辺町としては、ぜひ開催したいと考えていますが、棧橋や財政上の問題、宿泊所の問題、施設の老朽化など開催については、かなりのハードルを越えないと実現が困難であり、これらの問題点を解決しなければ開催地と

して決定をいただくのは難しいというのが現状です。

ペイオフ解禁後の 公金保護対策は

【牧田議員】

本年4月、ペイオフが全面解禁となります。1000万円を超える預金のある個人や法人は、預

一 般 質 問

金先を分散させたり、普通預金口座から無利息で全額保護の対象となる決済用預金口座に移すなどの防衛策も必要かもしれません。

町の公金の保護対策はどうか。

▶ペイオフ検討委員会 で協議・保護を図る

【高木収入役】
公金の資金運用については、元本が保証できる安全性、いつでも現金化できる流動性、収益性（利息）が獲得できるということを目的に行っています。

ペイオフ解禁後の公金管理運用については、今まで以上に自己責任が求められる安全性を重視していく必要があります。金融機関の経営状況の把握や預金債権と借入金債務（縁故債）との相殺、決済用預金の導入などの対策により公金預金の保護を

図る対策を講じるよう助役を委員長とするペイオフ対策委員会において協議しています。

健康ふれあい遊歩道 に再編してコースの 指定を

【牧田議員】

ダム湖左岸遊歩道は、本年度の第4期工事のみとなりました。

ダム湖周回コースの完成を機会に、「中部北陸自然歩道」と「健康リゾートふれあい街道」による各コースの指定を、「健康ふれあい遊歩道」に再編し、改めてコースの指定をしてはどうか。高齢者には「医者に行くよりダム湖一周」を合いことばに自主的な実践も期待し、小・中学校での活用も願うものです。今後の整備として遊歩道マップ、案内板、危険防止対策などと思うが考えは。

健康づくりを 主眼として検討する

【伊藤助役】

観光という面からみますと、スロースタイルという言葉とともに、少人数でゆっくりとその地域の歴史や文化に触れながら歩く観光が脚光を浴び、その需要に応えるため、各地でウォーキングコー

スが設定され、気軽に訪れ楽しむことができるようになっていきます。町でも3コースが指定されていますが、いずれも町外の人も来ていただき、広く活用されているとは言い難く、また、いくつかの散策モデルコースを設定し紹介してはいますが、観光振興には至っていない状況です。

健康づくりの観点からは、15年度から、中高年の健康づくりを目的とし

た健康ウォークを立ち上げ、この2年間で10のコースを設定しています。ダム湖周辺についても、16年度に一部区間を対象として実施していきます。

ダム湖周回遊歩道の完成を機に、健康ウォークでの成果も踏まえ、関係団体や住民との協働により、町民の健康づくりを主眼としたモデル的なウォーキングコースの設定やマップ等の検討を進める考えです。



中部北陸自然歩道（東光寺公園前）

農地の利用と 農業振興

【牧田議員】

去る2月に農林水産省から、農家の80パーセントは農地や農業用水などの地域資源を将来も維持していくことが難しくなるとの発表がありました。

当町も今日的な課題として、高齢化の進行によ

る担い手の減少、遊休農地の増大など危機的状況が来るようです。農家が農地を使い切れていないのが現実のようです。

こうした中、農業経営基盤強化促進法に基づき農地利用の集積計画で大型経営をスタートした方も、また町の認定農業者の方も最大限の努力をされています。農業を推進するために、農協、営農組合、愛菜の会、土地改良区、各管理区などへの側面的支援も町民として大事なことと思います。町の農業に対する考えを聞きたい。

地域リーダーの掘り起こしと育成を

【日下部産業環境課長】

本町の農業は、耕地面積約300ヘクタールのうち田が200ヘクタール・畑が100ヘクタールで稲作を中心に自家用野菜の作付けが行われて

います。

農業振興の基盤である農地を保全していくためには、担い手の確保が重要課題であると認識しています。そのためには、特に水田農業では営農組合の育成やJA法人による受委託も考えられますが、将来的には「地域の農地は地域で守る」集落営農（共同作業方式・オペレーター方式・集落一農場方式の3タイプ）が理想と考えます。集落営

農には、集落内の話し合いによる合意形成が必要であり、さらに、その推進役となる地域リーダーの掘り起こしと育成が必要不可欠となるため、JA、農業委員、土地改良区などと連携し支援する環境を整備するよう働きかけていきたい。広々とした農地は、生産の場であるとともに、国土保全や人間性回復の場でもあり、保全しているかねばと思っています。



営農組合による代かき&田植え

郡内合併に向け 早急に行動を



石井幸太郎 議員

【石井議員】

美濃加茂市と加茂郡7ヶ町村の合併破たんを受けて川辺町は、郡内合併に向けて主導権を發揮することが必要であると思います。商工業に携わる若い青年層は将来に危機感を持って、真剣に議論を戦わせた結果、加茂郡の合併を選択しています。合併という大きな枠の中で地域の特性、個性を伸ばすまちづくり政策が必要であり、そのためには、加茂郡の各町村が小異を捨てて大同につくことが必要です。

将来的には近隣市との

あらゆる選択肢を 否定せずに

【佐藤町長】

再合併も視野に入れながら、当面は早急に郡内合併に向けて行動を起こすことが必要と考えるがどうか。

合併という目的に向けていろいろな財政上の研究をしたり、あるいはつきあいを考えてみたり、施策を考えてみたりという「まちづくり」も含めた研究会として加茂郡町村合併等研究会が設立されました。

加茂郡7町村若しくは5町村になるかもしれないが、そういった町村との協議も当然視野に入れて、研究会の中で議論をしていきます。

いずれにしても、ある一つの方向に決める時期にはまだ早いのではないかと、私の今の基本的な態度であり、あ

らゆる選択肢を否定せずに可及的速やかに川辺町の進路を見定めたい。

編集後記

第1回定例会の初日に、川辺北小学校6年生の児童が傍聴に来てくれました。そして一般質問があつた17日には、何と62名の方がみえて、傍聴席に入ることができなく、他の会場で音声だけで我慢していただきました。こんなに大勢の方の傍聴は久しぶりでした。美濃加茂市との合併が破たんになり、今、7町村が、もう一度考え直そうと、まちづくり懇話会が立ち上がり、3月12日に、川辺町中央公民館にて懇談会が開催されました。若い方たちの意見の「和の心で、環境も視野に入れ、広い目で包み込んだ合併を」という熱い思いに、心から感動しました。

Y・S